丈夫な男と本当にする女

偽　二世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
丈夫な男と本当にする女

【Ｎコード】
Ｎ１１８０Ｈ

【作者名】
偽　二世

【あらすじ】
丈夫な男が、本当にする女に出会います。

丈夫の方の話

「努力もなしに何かを成し遂げた人は多分、不幸な人間だと思う。」
雨降りの外を窓越し見つめながらに彼女は言った。
僕は、「そうだね。」と呟くようかえし、やっぱりアレはもう少し黙っておこうと思った。

僕は、昔からなぜかケガをしにくい子だった。
それはきっと僕がとても運がよい人間でそのおかげなんだと母親や祖母にそのように聞かされていたし、僕もそのように考えていた。こければ怪我をするものだし、火に触れば火傷すると幼い僕は信じて疑わなかった。小さな子がサンタクロースがいると信じるように。
それがわかったのは母の料理の手伝いだ。僕は、母親に包丁を渡そうとし足に落とした。
そして、僕の足は無傷だった。僕は、とても丈夫な体だったのだ。
母はおそらく前々から僕の体のことに気づいていたのだろう。足に刺さらなかった包丁を少し見た後、優しく僕を抱きしめて、
「人というのは、違うものを弾いてしまう生き物なの」
と、悲しく呟いてこの事は誰にも言わないように、また、この事が周りに知られないようにしなさいといった。

その日から、僕は普通の人よりも怪我に注意深くなった。他人よりも丈夫な僕が人よりも怪我をしないようにするというのは少々皮肉な話だけど。それだけを気を付ければ他人には僕のその異常性がわからない、それ以外は普通の人と変わらないかったから。

そして、僕は普通の人の喜びや悲しみを経験し、またそのぼくの特徴に苦悩しながらもありたいていの人生を送りながら、僕はすこしだけ大人になり大学という所に入って、そして、彼女に会った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1180h/

丈夫な男と本当にする女

2011年1月26日14時12分発行